

1. 序論

民族衣装に興味があり、研究室で話し合っている中で、「胸を隠さない地域や民族もある」という意見が出たため、なぜ女性だけが胸を隠すのが気になる、このテーマにたどり着いた。

男体(なんたい)にも女体(にょたい)にも大きさは違うものの、基本的に同様の器官があるにも関わらず、男は出して良くて、女は出すと問題視され、場合によっては処罰されてしまう。同じものなのにどうして女性だけが胸を隠すのか、その理由を知りたいと思った。

男だから女だからという考え方に、日頃から違和感と嫌悪感を感じているということも、この研究テーマを選択した理由のひとつである。

2. 調査方法

書籍およびwebなどから情報を収集した。

女性用下着の歴史、下田の公衆浴場、ニップレス解放運動、西洋の風呂、子どもが恥ずかしがるのはいつからか、宗教、美術などの視点で調査を行った。

3. 結果

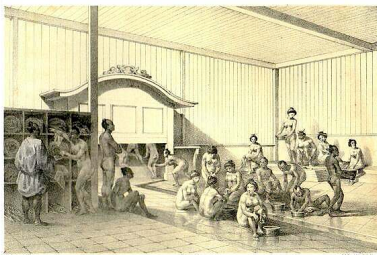


図.1 下田の公衆浴場

日本もヨーロッパも同様、歴史の中で世の中が乱れた時代があった。

日本では江戸時代(1603年～1868年)、湯屋(風呂屋)が混浴で、懐に余裕のある者は湯女(ゆな)と三助(さんすけ)という湯屋の奉公人を雇って体を洗わせており、風呂炊きはもちろんのこと、湯屋の雑用の一切はこの人達の仕事だった。だが、湯女(ゆな)と呼ばれた女性達は、男性の体を洗うだけにとどまらず、売春が行われており、その実

態は遊女にほかならなかった。

ヨーロッパはキリスト教で、性に対し極めて禁欲的な宗教である。しかし16世紀(1501年～1600年)までは公衆浴場があり、そこでは売春が行われていた。しかし、人々の中には神の教えに反しているという罪悪感があった。教皇庁は商人と手を組み、免罪符という犯した宗教上の罪が許されるという御札を作り、そこから上がる莫大な利益で聖職者は贅沢な生活を送り、自分たちも免罪符を買って遊んでいたとされる。

そして、1853年、鎖国中の日本に、開国を求めて来航してきたペリー達は日本を見てこう言っている。「身分の低い日本人は、道德こそ他の東洋諸国より優れているものの、淫猥(いんわい：性的に下品でみだらなこと)な人たちだ」「婦人たちは胸を隠そうとはしないし、歩くたびに太ももまで覗かせる。男は男で、前をほんの半端なぼろで隠しただけで出歩き、その着装具合を別に気にも止めていない」としている。

4. 総括

なぜ女性が胸を隠すのかという問いに対し、私は、社会の風紀が乱れるから、そしてそれを防ぐために為政者が規則を作り、その結果、集団から疎外されないために、隠すことが当たり前になり出すことは恥ずかしいことだと羞恥心を植え付けられたからである。そして、女性は胸を隠さなくて良いとされたのは、男女が制限なくいられた混浴の時代までである。という1つの解に達した。

成熟した社会では、規則は守らなくてはならない。非日常が目の前にあったら誰だって見てしまう。限られた人や場所としか関わらず、生まれた時から胸を隠さない所で育てば当然隠さない。しかし私達は、不特定多数の人と、いろいろな場所ですれ違い、面会する、この広い世界で、生きている。そのため胸を出して生活するわけにはいかない。秩序のある、理性的で高度に発達した社会を作っていくために、必要なことである。